

Crew Voice

2012年4月26日 創刊号 JR東海労新幹線地本乗務員分科会

こんなことで車掌業務を外されて「再教育」＝試験？ みなさんどう思いますか！

Hさんは、3月31日のぞみ105号運転車掌業務において、東京駅発車時、ドア閉扉後「側灯滅」「挟まれなし、接近なし」を確認した際、14号車付近で男性旅客が接近してきたことを認め注意監視していたところ、さらに接近したためUBSを扱いました。

その状況は、HさんがUBSを引いたと同時に、14号車の側灯点灯、駅からの緊急開扉合図、後続車掌からの「UBS」という声など、三者が同時に危険と判断した時期が一致しているのです。この三者の一致からしても何ら問題にされることではないのです。しかも緊急開扉合図があったので、ドア開扉して再乗降終了合図でドア閉扉をして所定の取扱いをしています。当然、旅客指令への報告でも何ら問題がなかったのです。

しかし、4月6日になって突然、東二運・小川営業科長がHさんに用件をかけて「ビデオを見た。黄色線の外側（列車より）に入っていた。ドア閉扉からUBSを引くまで10秒かかっている」として問題にしたのです。

そして後日、乗務を外され「日勤」となり、事情聴取・時系列等報告書・対策シートを書かせて、執拗に会社のストーリーに合わないところを書き直しも強要したのです。

さらに、何ら理由も言わず「新幹線乗務員の再教育」に入るかどうかの「見極め試験」を強行して不合格であるとして「再教育」に入れたのです。

みなさん！この判断間違いでしょうか？

何が問題なのでしょう。50m先の黄色線の外側か内側か安全柵があり明確に判断できますか。むしろ、駅係員や後続車掌の角度からの方がわかると思います。

さらに、UBSを引くまで10秒かかっていることが問題でしょうか。そもそも危険と判断した時期は、Hさん・駅係員・後続車掌三者が一致しています。これが問題だとなるのでしょうか。そもそもビデオは、車掌の開き窓からの角度から写っているのでしょうか。こんないい加減な理由で業務を外され「再教育」＝試験です。毎日のように、旅客の接近、駆け込み、駆け降りなどがあり正直冷や冷やものです。さらに、このプレッシャーです。全乗務員の課題だと思います。みなさんも声を上げてください。

JR東海労新幹線乗務員分科会は、情報『Crew Voice』を創刊しました。その意味は、乗務員の声です。特に、乗務員の労働条件や待遇など乗務員の特殊性がだんだん奪われていくことや安全問題に対して、話題を提供して共に考えていきたいと思いますという主旨で出します。こんなことを問題にしてという多くの意見と感想をお願いします。